

平成22年度病害虫発生予報第1号

平成22年4月5日
愛知 県

1 普通作物

コムギは平年よりやや早く生育しており、11月10日に出芽したイワイノダイチでは、すでに出穂期を迎えています。農林61号も、今後気温が平年並に推移した場合、出穂期が平年より4日程度早くなると予測されています。赤かび病感染予防のための防除適期は、穂ぞろい期から開花初期までです。防除適期を逃さないようにしましょう。詳細は本日発表の「ムギ類赤かび病情報第1号」を参照してください。

イネの温湯種子消毒を行う際は、定められた処理温度、時間を守りましょう。微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が低いと効果が劣る場合があるので注意しましょう。消毒後は病原菌による汚染がないよう管理しましょう。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）は、急激な温度差やかん水むらなどの環境変化が発生を助長するので、育苗期の温度管理などに気をつけましょう。

2 果樹

落葉果樹の生育は、地域や品種によりばらつきも見られますが、やや早い状況です。生育ステージにあわせた適期防除を心がけましょう。

3月の降水量が多かったため、病害の発生が懸念されます。ナシでは、昨年発生がやや多かった黒星病、春季に降水量が多いと発生が多くなる疫病に注意しましょう。

カンキツでは、昨年秋の台風の影響でかいよう病の発生が懸念されます。発生を確認したら直ちに防除しましょう。

チャバネアオカメムシは、越冬密度調査の結果から、6月末までの飛来数は多いと予測しています。飛来は局地的な場合があるので、ウメ、モモ、ナシ等それぞれ園内の発生状況をよく確認し防除しましょう。

ナシヒメシクイは、4月に入ってから長久手町のフェロモントラップで、成虫が平年より多く誘殺されました。成虫はこれからモモの新梢に産卵し、幼虫が芯折れを発生させるので防除適期（4月中旬）を逃さないように防除しましょう。

3 野菜（露地）

タマネギでは、白色疫病の発生はやや少なく、べと病の発生は平年並の状況ですが、今後、気温が高く降雨が続くと発生が増加します。発生を確認したら直ちに防除しましょう。

4 野菜（施設）

トマトでは、一部の地域で疫病の発生を確認しました。天候によっては引き続き、発生する場合がありますので注意しましょう。

タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（TYLCV）の発生は、ここ数年で最も多い状況が続いています。ローテーション防除を心がけ、コナジラミ類の防除を徹底しましょう。また、収穫終了後、残さを外に持ち出す前に施設を密閉してコナジラミ類を死滅させましょう。

トマト、ナス、キュウリ、イチゴでは、灰色かび病の発生が多い状況が続いています。施設内の換気に努めるとともに、ローテーション防除を心がけましょう。

ナスではミナミキイロアザミウマの発生が依然多い状況が続いています。防除の徹底を図りましょう。

5 花き

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類が増加するので、親株床も含めて防除しましょう。

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	全域	前年の穂いもち発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
	ばか苗病	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病 (苗腐敗症)	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
ムギ	うどんこ病	平年並	全域	3月下旬現在、調査ほ場では 発生を確認していない 4月の降水量は平年並	± ±
	赤かび病	平年並 (やや早い)	全域	4月の降水量は平年並 生育はやや早い	± +

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	全域	越年罹病葉率は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
ナシ	赤星病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
	黒星病	やや多い	全域	前年秋の発生量はやや多い 4月の降水量は平年並	+ ±
モモ	せん孔細菌病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
	灰星病(花腐れ)	平年並	全域	前年の果実被害発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
	モモハモグリガ	平年並	全域	前年秋の発生量は平年並	±
ブドウ	黒とう病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±

・ 防除対策

[ナシ黒星病]

りん片発病芽および新梢基部病斑は見つけ次第除去し、落花後にスコア水和剤10やアンビルフロアブルなどで防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
トマト (施設)	灰色かび病	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の日照時間は平年並	+
	コナジラミ類	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ハモグリバエ類	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	灰色かび病	多い	全域	3月下旬の発生量が多い 4月の日照時間は平年並	+
	ハモグリバエ類	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロアザミウマ	多い	全域	3月下旬の発生量が多い 粘着トラップによる誘殺数は平年並	+
キュウリ (施設)	べと病	多い	全域	3月下旬の発生量が多い 4月の日照時間は平年並	+
	うどんこ病	やや少ない	全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間は平年並	-
	灰色かび病	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の日照時間は平年並	+
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	全域	3月下旬の発生量は平年並 粘着トラップによる誘殺数は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	多い	全域	3月下旬の発生量が多い 4月の日照時間は平年並	+
	ミカンキイロアザミウマ	やや多い	全域	3月下旬の発生量はやや多い 粘着トラップによる誘殺数は平年並	+

・防除対策

〔トマト（施設）・灰色かび病〕

換気を行って、湿度の高い状態が続かないよう努めましょう。同一系統薬剤の連用を避け、ボトキラー水和剤、カンタスドライフロアブル、ベルコート水和剤、ゲッター水和剤などを防除体系に組み込み、ローテーション防除を心がけましょう。

〔ナス（施設）、キュウリ（施設）、イチゴ（施設）・灰色かび病〕

平成22年3月5日発表の「平成21年度病害虫発生予察注意報第6号 ナス（施設）、キュウリ（施設）、イチゴ（施設）・灰色かび病」を参照してください。

〔ナス（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

プレオフロアブル、ダントツ水溶剤などで防除を徹底しましょう。

〔キュウリ（施設）・べと病〕

換気を十分行い、過剰なかん水を避けるなど湿度を上げないようにするとともに、肥料切れに注意し、発病葉は早めに除去しましょう。ホライズンドライフロアブル、フェスティバルC水和剤、ランマンフロアブルなどで防除しましょう。

〔イチゴ（施設）・ミカンキイロアザミウマ〕

スピノエース顆粒水和剤、コテツフロアブルなどで防除しましょう。

参考

発生量及び発生時期の基準

発生量	平年並 やや多い やや少ない 多い 少ない	平年値を中心にして40%の度数に入る幅 平年並の外側20%の度数に入る幅 同上 上記三者の外側10%の度数に入る幅 同上
発生時期	平年並 やや早い やや遅い 早 遅	平年値を中心にして前後2日以内 平年値より3～5日早い 平年値より3～5日遅い 平年値より6日以上早い 平年値より6日以上遅い

東海地方の1か月予報（名古屋地方气象台4月2日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

東海地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

週別の気温は、1週目は低い確率60%、2週目は低い確率40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）〉

〔気温〕 低い：50% 平年並：30% 高い：20%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%

〈予想される天候の特徴〉

当地方の向こう1か月は、天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多い見込みです。期間のはじめは寒気の影響を受ける時期がある見込みです（4月3日～4月30日の晴れ日数の平年値は約16日）。

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。

ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については、

<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/minor.html> をご覧ください。